

令和6年度 当尾保育園における自己評価

新保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。よって、当尾保育園では、これに基づき自己評価について公表いたします。

【評価について】

評価するにあたっては、以下のような基準で行っています。

- A：85%以上・・・かなりできている
- B：65%以上・・・ほぼできている
- C：50%・・・あまりできていない
- D：25%・・・ほとんどできていない

(1) 保育の計画性

評 価 項 目		評価
1 保育所保育指針の理解について		
①	保育所保育指針の趣旨について理解している	A
②	保育所保育指針が示す「保育所の役割」を理解し、保育を行っている	A
2 保育所の理念・保育方針・保育目標の理解について		
①	保育所の保育理念・保育方針・保育目標を理解している	A
3 保育計画の作成と環境構成		
①	地域の実態や保護者の意向などを考慮して保育課程を作成している	B
②	保育計画は、乳幼児の興味や関心、これまでの生活や予想されるこれからの生活等を考慮して作成している	A
③	行事は乳幼児の生活状況や地域性を考慮して保育計画に組み入れている	A
④	気になる子や障がいを持つ子への保育計画が立てられている	A
⑤	保育計画に基づいて、乳幼児が主体的に関わりたくなるような安全で清潔感のある環境構成をしている	A
⑥	楽しい雰囲気の中で、安定して遊びこめるように遊具や用具、素材など質、数量を考慮して環境構成をしている	B
⑦	乳幼児の発達や生活を見通し、季節の変化に応じた環境構成をしている	A
4 保育と計画の評価・反省		
①	自分の保育を振り返り、評価反省を行い、次の保育と計画に生かせるように行っている	A
②	職員間で共通認識を持ち、評価の課題改善に向けて取り組んでいる	A

(2) 保育の在り方、幼児への対応

評 価 項 目		評価
1 健康と安全への配慮		
①	子どもの健康状態を定期的、継続的に把握し健康管理している	A
②	朝の登園時は視診・触診を大切にし、怪我の有無や体調の変化などがいないか確認している	A
③	体調が悪そうな時は、静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、必要な時は家庭へ連絡をしている	A

④	身長・体重などの測定を定期的に行い、家庭に知らせるとともに、バランスの取れた発育が促されるように配慮している	A
⑤	感染症の予防に努め、流行病の情報を家庭、関係機関にも伝達している	A
⑥	気候や子どもの活動に合わせて、温度、湿度、換気などに配慮している	A
⑦	施設内外を清潔に保ち、玩具・遊具の点検を定期的に行い、安全・安心感のある環境作りに努めている	A
⑧	災害や地震、不審者対応を想定した避難訓練を定期的を実施し、事故や災害に適切に対応するためのマニュアルがあり、正しく理解し行動できる	A
⑨	保護者から健康状態などの申し出を受けるなど、乳幼児の健康情報を共有し、アレルギー、熱性けいれん、などの既往症や予防接種の状況について職員間で配慮している	A
2 乳幼児への関わり		
①	子どもとの温かなやりとりや、スキンシップでコミュニケーションを図り、信頼関係を築いている	A
②	子どもが遊びや活動を深めていくためのヒントやアイデアを提供している	A
③	必要以上に禁止、命令、行動を急がせたり、自信を失わせる言葉や態度は控え、安心感と自己肯定感を持てる言葉かけをしている	A
④	クラスに関係なく、その場にいた保育士が適切な言葉かけや対応をしている。また、情報を共有している	A
⑤	配慮を必要としている乳幼児については、保育士全体でよく話し合い、共通理解をもって工夫して対応している	A
⑥	乳幼児期は身体的条件や成育環境などの違いにより、一人ひとり心身の発達に個人差があることを理解し関わっている	A
⑦	授乳は子どもの欲しがる時に抱いて目を合わせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている	A
⑧	オムツ交換時は易しく声をかけたりスキンシップをとりながら行っている	A
⑨	家庭と連携を取りながら、一人ひとりに合わせて離乳食の移行を行い、様々な食品に慣れ、食への意欲を育てている	A
⑩	十分な睡眠がとれるような静かな環境を整え、午睡の状態、SIDS（幼児突然死症候群）のチェックを記録している	A
⑪	一人ひとりの排泄感覚を把握し、その子の排泄リズムに合わせて、オムツ交換をしたり、トイレに促している	A
⑫	落ち着いた雰囲気の中で抱いたり語りかけたりして、乳幼児が人との関わりの楽しさや心地よさを味わえるようにしている	A
⑬	泣いたりぐずったりのサインを見逃さず、要求に応じた適切な対応をしている	A
⑭	生活に必要な基本的生活習慣（生活リズム・睡眠・排泄・食事）や態度を身につけることができるように常に援助している	A
⑮	運動遊びを充実させて、やり遂げた喜びや自信が持てるように配慮をしている	A
⑯	身近な友達との関わりを通し、相手を思いやり、譲り合う気持ちを身につけるよう援助している	A
⑰	意欲的に人と関わり、ルールを守って活動する心地よさを味わわせられるように援助している	A
⑱	異年齢児の交流ができる保育環境を作っている	A

⑱	身近な動植物や自然に親しみ、感謝の気持ちや生命の尊さを感じられる援助をしている	A
⑲	伝統的な年中行事などを保育に取り入れ、地域の人々の生活を直接感じ取ることができるよう配慮している	A
⑳	感動や発見ができるような状況を作り、様々に表現することができるような環境構成をしている	A

(3) 保育者としての資質や能力・良識・適性

評 価 項 目		評価
1 専門家としての能力・良識・適性		
①	保育に携わる者として、専門知識や技能を身につける努力をしている	A
②	保護者との信頼関係を得るために努力している	A
③	保育者の人間性が子どもたちに影響を与えることを自覚している	A
④	保育士という職種や施設の信用をなくす行為、発言をしない	A
2 良識とマナー		
①	朝と帰りの挨拶は明るく親しみを込めて行い、感謝の気持ちを言葉などで表している	A
②	施設の消耗品や教材は節約して使い、私用に使っていない	A
③	服装、髪形、髪色、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけ、安全性にも気をつけている	A
④	自己の健康管理ができる	A
⑤	職務上の事案と私的な事案を明確に区分することができる	A
3 義務		
①	教材、教具の管理、点検、施設内の清掃や整理整頓を実行している	A
②	締め切りのある仕事や、提出物の締め切り、会議や打ち合わせの時間や出勤時間をきちんと守っている	A
4 組織の一員としての在り方		
①	子どものこと、クラスの出来事、保護者からの苦情、虐待情報、仕事上不安な事など、必要なことは園長や主任保育士に「報告・連絡・相談」している	A
②	当番や役割による仕事を理解し、職員間でコミュニケーションを密にし、互いに助け合いながら、保育所運営を行っている	A
③	保育情勢や福祉サービスに関心を持ち、保育所が社会に貢献できることは何かを考え、取り組んでいる	A
④	自分の保育観、子育てニーズに固執せず、現状に応じ柔軟に対応するよう心がけている	A
⑤	保護者からの伝達事項があるときは、メモを取り、確実に担任に伝えている	A
⑥	職員会議等で各クラスの状況を聞き、担任ではなくても各クラスの様子を把握している	A
⑦	自園で解決できない問題に対して、他の機関（児相・保健師・療育・医療・民生委員等）と連携できる	A

(4) 保護者への対応・守秘義務

評 価 項 目		評価
1 情報の発信と受信		

①	一人ひとりの子どもについて、家庭での養育方針などを把握している	A
②	「園だより・クラスだより」などで保育実践の内容や意図、クラスや子どもの様子を、わかりやすく伝える努力をしている	A
③	個々の子どもの様子は、直接保護者と話をしたり、連絡帳、電話などを使って伝え、成長を共に喜び合えるように、子どもの心身の発達について共通理解を図っている	A
④	保護者からの様々な訴え、要望、意見については安易に受けたり、断ったり無視したりせず、園長、主任保育士等に報告や相談している	A

2 守秘義務の遵守

①	利用者や職員や施設の批判を軽はずみに言ったり、プライバシーについて他へ漏らしていない	A
②	施設の運営上の情報、個人情報、相談内容、子どものことは、他の保護者との雑談で得た情報は、施設内で適切に検討、処理され、外部に漏れない配慮をしている	A
③	秘密情報の書類、電子データのコピーは園長の承認を受けた物のみ、必要最小限にし、必要がなくなった場合は適切に処分している	A
④	インターネットのホームページに個人を特定できる写真を載せるときは、了解をとってから載せている	A

3 対応上のマナー

①	親しくなったからといっても、保護者と友だち同士のような話し方をしていない	A
②	保護者からの依頼や伝言等については、メモをするなどきちんと対応している	A
③	長期の欠席や入院などの場合は、見舞ったり、園やクラスの様子を伝えたりしている	A
④	保護者の国籍、思想、宗教により、また、子どもの性差、障がい、個性差によって、区別、差別せず公平に接している	A

4 クレームへの対応

①	苦情処理窓口が設置され、適正な苦情処理がなされている	A
②	保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長、主任保育士に連絡、報告、相談している	A

(5) 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度

評 価 項 目		評価
1 自己啓発		
①	研修会・研究会に参加する場合は自己課題・向上心を持って参加し、参加後は速やかに研修報告（復命書）を提出している	A
②	子ども達の安心・安全に関する危機管理について興味・関心を持ち、情報収集に努めている	A
③	保育の専門知識や技能のほかに、趣味や読書、芸術、音楽鑑賞、ボランティア活動等に関心がある	A

(6) 子育て支援について

評 価 項 目		評価
1 入所児の保護者の育児支援		

①	子どもの送迎時に子どもの様子を伝えあうようにしている	A
②	連絡帳や掲示板などできめ細やかに情報交換をしている	A
③	入所時や面談の時、保育内容や目的をわかりやすく説明し情報提供を行っている	A
④	お便り、連絡帳、口答にて一日の生活リズムの大切さを保護者に伝えている	A
⑤	子育てを支えるために、保護者の気持ちに配慮しながら、話を聞いたり、自ら選択できるような適切なアドバイスを行っている	A
⑥	保護者が子育てにおいて孤立感を感じないように努力している	A

(総 評)

・自己評価を行うことで、職員自身が保育の見直しをし、園全体の保育や運営について見直しをすることができました。また、主体性を尊重する保育に関しては、子ども一人ひとりのことを考え、思いやり、職員間でよく連携をとり、話し合いを重ねながら個々の発達に応じて園全体でできた。

・配慮が必要な子どもにとっては、研修を重ね個々に応じた保育を、保護者と共に共有し、成長に繋げていけるよう取り組んでいきたい。また、外部の機関とも連携を取りながら質をあげたい。

・職員全員で全保護者と連携を取りながら、子どもも保護者も安心して園生活が過ごせるように信頼関係を更に深めていきたい。

(今後の取組)

・職員の研修を園外研修、園内研修とも充実させ、相互に学ぶ機会を増やしていく。

・各クラス連携を取り、問題等起きた場合は、園全体で話し合いを行っていく。